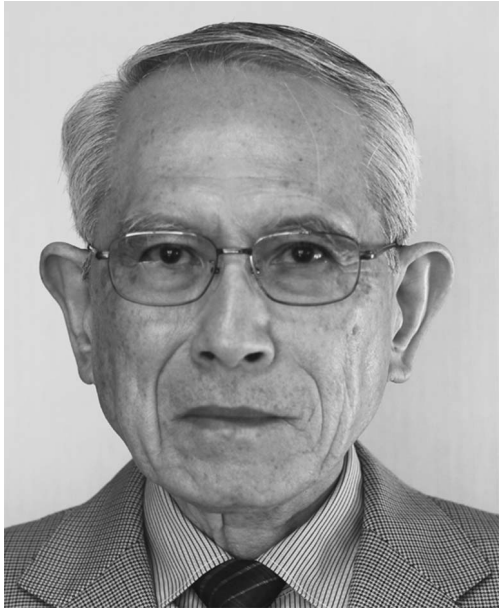
このひと

日本分析化学会名誉会員になられる

保　母　敏　行　氏

（Toshiyuki HOBO
東京都立大学名誉教授）



1940 年東京に生まれる。**1968** 年に東京都立大学大学院工学研究科博士課程を修了後，同大学助手に着任した。**1974** 年～**1976** 年米国メリーランド州立大学に博士研究員として留学し，**1985** 年東京都立大学助教授，**1987** 年教授となり，**2003** 年定年退職し名誉教授の称号を授与された。この間，**1998** 年「クロマトグラフィーのための分子認識型分離システム」に対し日本分析化学会学会賞，**1993** 年と **2001** 年に分析化学論文賞を受賞した。ガスクロマトグラフィー研究懇談会委員長，「分析化学」編集委員長，日本分析化学会関東支部長，日本分析化学会副会長などを歴任し，**2000** 年には **ASIANALYSIS VI** の実行委員長を務めた。

保母敏行先生がこの度名誉会員に推戴されたことをお聞きし，心よりお慶び申し上げます。荒木(峻)研究室の先輩で私の在学中には先生が米国留学しておりお教え頂くことができませんでした。卒業後企業に入って 10 年ほど経った頃，研究室と会社両方の先輩である浅野泰一さんに荒木研の OB 会に誘われ，これを機に幹事と連絡役となり研究室に出入りするようになりました。ガスクロマトグラフィーを応用した研究開発の中で，超臨界流体クロマトグラフィー（SFC）と抽出（SFE）に興味を持ち，1985 年に装置化を手掛けてすぐに先生に教えを請いに伺いました。先生の研究室には田口　正さんがキャピラリーカラムを用いた米国製の市販装置を持ち込み研究していましたが，保母先生は，私が手作りの試作機でとったデータの説明などを丁寧に聞いてくれました。すぐ，学生の研究テーマとして取り上げて頂き，その後ガスクロマトグラフィーの分野も含めてご指導頂き，共同研究など行うことになりました。先生とは 1991 年にユタ州のパークシティというスキーリゾートで開催された超臨界流体の国際学会に田口さんと 3 名で発表に行き，これを機に数々の国際学会に同行させて頂きました。学会では先生から最先端の研究，研究の背景や歴史，研究者の関係等国内では得られない貴重なお話を直接教え頂き，先生の学識の深さに感銘するとともに，新しい発想や発見を素直に評価される姿勢に感銘を受けました。先生は国際学会で時間が空いたときには積極的にハイキング，観光，美術館や博物館めぐりなどを楽しまれ，見聞を広めて交流の話題とされていました。ご一緒させていただき，学会は自分の研究成果発表だけでなく，質問や何気ない会話から交流を深め，いろいろと意見交換し見聞を広める場であること，人との繋がりを広める場であることを学ぶことができました。

先生の研究の中心となるテーマは「分子認識をめざした分離と検出手法の開発」ということで，手法の開発に力を入れたと伺っております。研究に臨む姿勢は常に「創意工夫と新しいアイデアの実現」を重んじ，実際に手がけられた研究の幅はとても広く，ガスクロマトグラフィーにとどまらず，化学発光分析，フローインジェクション分析，μガスセンサー，キャピラリー電気泳動分析，超臨界流体クロマト・抽出，高速液体クロマトグラフィーなどの研究とその応用などで多くの研究成果があります。先生はガスクロマトグラフィー関連の JIS や排ガス関連 JIS，ISO 国内委員会委員長，各種委員会委員長，日本分析化学会常議員や内部の各種委員会委員を歴任され，研究指導以外の公務も多忙でした。忙しい中でも学生の指導を丁寧にされており，学会発表の前は発表練習で双方が納得いくまで指導をされておりました。また，ガスクロマトグラフィー研究懇談会では長年にわたり，正しい用語の使い方や基礎を理解しよりよい応用につなげるための指導を続け，社会に出てから勉強し直す方々の教育を行っております。

海外との研究交流も活発で，研究室にはたいてい留学生がおりました。奥様ともども留学生の生活面を支え，公私ともに研究環境を整えるよういろいろと心を尽くされておりました。留学生たちからは日本のお父さん・お母さんと慕われて卒業後も交流を大事にされております。1996 年には卒業生たちの発案で荒木　峻先生 80 歳を記念して研究室の学生を海外に派遣する海外協力基金が創設され，先生の指導で多くの学生たちが海外経験を積む機会が与えられました。お酒の好きな先生の研究室では，飲みニケーションを通じて卒業するとお酒がたしなめるようになると評判でした。卒業後も気軽に研究室を訪問できる暖かい雰囲気は先生のお人柄の賜物と思います。退職されてからは，海外の学会に奥様を同伴される機会も増え，仲の良いお二人が参加されることで会も盛り上がりをみせております。

保母先生に師事された方々のなかで私がこのような執筆をさせて頂くことは恐縮ですが，人とのつながりを大切にし，在学中に大いに見聞を広め人との繋がりと研究の楽しさを学んだ卒業生を多数社会に送り出した実績は誰しも認めるところと思います。今後も，奥様ともども後進のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

〔㈱産業技術総合研究所　前田恒昭〕